

## ホームレス支援ニュースNo.5 2007年10月30日 HL 支援委員会

夏季号は 2002 年度以来、広島、呉、福山の地域での地域住民、ボランティア、行政、介護福祉士会、看護協会、社会福祉協議会等との協働活動をお伝えしました。

秋季号は、住民のボランティア活動、専門職団体の支援活動・考え方、当事者の考え方に焦点をあてて原稿をいただきました。

ホームレス支援委員会は現在、10 数名のメンバーで、2002 年度以来、広島、呉、福山の地域で、夜回り、くつろぎ・入浴サービスを通して路上脱却支援を目的に、ホームレス者の支援を行っています。そこで使用する社会福祉援助技術は、アウトリーチ、相談援助、生活場面面接、個別援助、地域援助技術、社会福祉計画技法、コミュニティ・ソーシャルワークなど多用しています。(編集;岡崎仁史)

### 福山での市民主体の支援活動

日回りの会(ひまわりのかい)代表 平田弘さんに鳥海さんが聞きました。

#### ■普通の市民が支援活動に参加するきっかけは何でしたか？

「それまで、お米や物品を大阪や広島ホームレス支援団体へ送っていました。その支援団体の人から“福山で野宿をしていた人が仕事を求めて広島に来ている人と出会った”という話を聞きました。他の街へ物資を届けるよりもその物資を自分の町で野宿をしている人へ届け、一刻も早く路上生活から脱却してもらわなければと思いました。仲間数人に呼びかけ賛同者とともにカレーをつくり、河川敷や橋の下、駅や駐輪場を廻りました。」

#### ■普通の市民は専門的支援技術を持たないのにうまく彼らと人間関係を作れましたか？

「最初は、こちらも恐々…、うまく声をかけることができませんでした。支援を拒否されたり、どなられたりされましたが、何回も通っていくうちに次第に信頼を得ることができ、身の上話などをしてくれるようになりました。」

#### ■普通の市民活動の転機は何でしたか？

「そんな時、私たちが支援活動を始める以前から活動をしているボランティア団体があることを知り連絡をとり活動に参加させてもらいました。活動の曜日・時間帯が違うので私たちが把握していないホームレスの人たちの情報を知っていたり、支援物資が重なっていつたりすることがわかりました。当時は福山でも 60 人近いホームレスがおり、物資も限られていたのでできるだけ特定の人に支援が集中しないようにすることが必要でした。こうしたこともありお互いの情報交換・共有の必要性を感じていました。」

#### ■普通の市民の活動は社会福祉士からどのような支援を得ましたか？

「2002 年の冬に、良いタイミングで“社会福祉士”という資格をもつ人たちが数人、活動の輪に入ってきました。まずこの人たちが提案してきたことが ①福山市内の支援団体を把握し、お互いに情報交換をする場をもつこと、②行政機関と連絡を取り合うようにすること、③支援活動の人材を増やすこと などでした。」

「支援団体同士の情報交換の必要性は皆が感じていました。早速、連絡を取り合い 4 つの支援団体が参加した会議がもたれました。まず、自分たちの活動を紹介しあい、把握しているホームレスの人たちの状況などを話し合いました。」

「また、“社会福祉士”の人たちは私たちではなかなか馴染みのない福祉の制度や相談機関、就労の斡旋機関などよく知っていました。ボランティア講座を開いて活動を PR することや

新しい人材を獲得する方法など私たちだけではなかなか行えないことをしてもらいました。

実際その講座のメンバーが支援活動に関ってくれるようになりました。人数が増えることで夜回りの負担感が減り、活動が長続きするようになりました。また、行政と連携をしながら“会食会 & 相談会”を実施し、多くの人が路上から脱却するきっかけもできました。」

**■普通の市民の活動から、ホームレス者の路上脱却には、社会生活に必要な物的資源に加えて、何が一番必要ですか？**

「ホームレス者は路上生活を脱却してアパートを確保したけれど、近隣に話し相手・相談相手もなく孤独に耐えかねて、路上に戻ってくる人たちが少数ですがいます。路上生活を脱却した人たちのアフターフォロー、こうした人たちが気軽にお茶や話ができるようなサロンができないか模索しています。」

**■支援活動に参加するには、いつ、どこに何を準備して行けば、良いですか？**

「毎週日曜日、17:30 にカトリック福山教会(福山市昭和町)に集合し、おにぎりとスープを調理して巡回します。終了時間は約 20:00 です。ご都合のつく日で参加が可能です。参加してみたいと思われる方は、鳥海さんに(携帯09071249674)連絡してください。関心のある方は是非、夜回り活動や路上相談活動に参加し、実態を把握した上で、一緒に新しい支援のあり方を考えてみませんか？ 冬に向かうので、防寒着、運動靴、メモ帳など、勿論意欲があれば、それで十分です。」

### 広島のくつろぎ・入浴サービスに参加して

元県看護協会広島西支部長の丸山さんと共に、看護職としてこの活動に参加させていただくようになって2年余が経過しました。金曜日の午後、「身体具合は？」「軽食の献立は？」など、楽しみに出かけています。

初めてお会いする方、少し顔見知りになった方、わずかな時間の中で信頼関係を築くことの困難さを痛感しています。

私達は、生活というか日々の暮らしが成り立って始めて自分の健康について考えることができるように思います。高血圧、糖尿病といった生活習慣病の疑いのある方が多いのですが、食生活の改善は難しく、私自身の無力さを思うばかりです。面倒な手続きをしなくても健康診断が受けられるといいのですが・・・

利用者にとっては、月に1回のくつろぎサービスの場なのでできる限り家庭的な雰囲気の中で、他人との絆を保てる喜びを見出して欲しいと思っています。

身体の具合が悪い時などお互いが支えあって一時的に休養できる場所を、皆の連携によって創りたいものです。  
(広島県看護協会広島西支部 看護師 田辺操子)

#### ■健康状態は悪い

ホームレス者は様々な複雑な事情により路上生活を余儀なくされており、食事・栄養摂取が良くなく、休息、暖を取る術もなく、そのような生活が長くなるに連れて自ずと健康を害しています。入浴サービスでは、入浴前に入浴可能のチェックも含めて利用者の健康状態を聞き、バイタルチェックの結果などをみて、看護師として健康維持のための助言をし、医療が必要な人には医療扶助、無料低額診療所の福祉サービス利用を助言して、医療福祉に繋いでいます。最近では二人の利用者が危険な状態になる前に医療扶助を受けて、一人は入院、手術を受け、もう一人は無料低額診療所で治療を受けることができました。また、支援者はボランティアで参加する元路上生活経験者の健康相談にも乗っており、彼らの健康情報、福祉情

報へのアクセスの術を持たない現況を知らされています。

#### ■就職活動支援

2004年に「相談手帳」を作成し、利用者、ハローワーク、福祉事務所、社協などの関係機関に配布しています。手帳の中の連絡先情報を見て、ハローワークから支援依頼がありました。九州出身の20歳代半ばの男性がホテルに泊まっていたがお金を使い果たし、ホームレスに成りかかり、ハローワークに就職活動にやってきました。本人は〇月〇日(×)の午前に就職面接を決めたが、お金がないという状態でした。関係者と相談して、宿泊はできないが、面接のために入浴、衣類の着替え、簡単な食事の提供をしました。

#### ■くつろぎ・入浴サービスへの参加は、

2003年のホームレス実態調査から就職、入浴・清潔、食事などのニーズが分かり(2007年調査も同様の結果)、入浴サービスを開発し、2004年2月20日から始め、10月末現在で150回を数えました。社会福祉士会が責任団体となり、看護協会、介護福祉士会、社会福祉協議会、ボランティアとの協働です。現在の活動の場所は西区のアパートで、活動は第1・第2金曜日、第3・第4土曜日の月4回で、いずれも12時30分～18時です。利用者は予約制で、一人90分利用で、1日3、4名ですが、時には5名になることもあり、いろいろ普通の会話の流れから相談支援を行っています。詳細は広島県社会福祉士会事務局まで(082-254-3019)。

### 呉の夜回り活動

#### ■仕事が忙しく…

先月は仕事のため行けなく2ヶ月ぶりの夜回りとなった。

#### ■社会的個人、相互関係に生きる

Aさんの所に行くときと相変わらず雑然としていたが、健康状態は良好であるということでした。起居している辺りの河川敷は草が綺麗に刈られていた。それは知り合いの元ホームレス者がやってきて草刈をしてくれたとのこと。彼らは路上脱却しても関わりを持ち、ホームレス者同士の交流、社会関係があることもわかりました。

#### ■頑丈な住宅？

Bさんの橋の下の住居は橋の補強工事のため移動していました。材料は工事用の足場のため随分頑丈に出来ていました。不在のため手紙を置いたが、翌日偶然Bさんを見かけました。彼はかなり身なりも良く、今までとは違う感じを受けました。

#### ■こざっぱり、清潔に、待っていた

Cさんは短く髪を切りこざっぱりしてされていた。Dさんの所に行くとき、いつものように、私達夜回りを待っていた様子で、鍵をかけられていた。

#### ■インターネットカフェ

Dさんの話によると、夜は蚊に刺されるのでここでは眠ることは無く、インターネットカフェで過ごしているようです。インターネットカフェ難民は非正規労働者が多く安定した収入が無いためアパートを借りることが出来ず、年齢層に二つの山が出来ています。20歳代の若者が多いことがホームレス者の年齢層とは違う点でしょう。

#### ■また増えたホームレス者

先月から一人ホームレス者が増えました。Wさんは瀬戸内海の自給自足の島で生活しようと思いき、車で和歌山から瀬戸内海を目指してやってきたが、R54号線の山中で車が動かなくな

り、徒歩で犬と一緒に呉にたどり着き、気がついたらホームレスになっていた。喘鳴が少しあり、Wさんの起居の場所は満潮になると水が上がるので、喘息には最も悪い環境です。

#### ■民間保険の給付手続きをした

話をしていると、民間の生命会社の年金をかけており、近く給付があると言う。○月×日にまとまった年金が下りるが、住所地がないため入金の手続きが出来ないという。次の日(月)に以前の住所地を使用して郵便局に通帳を作ったようである。公的年金は加入していないが、若い時に将来に不安を持ち民間年金に加入したとのこと。

#### ■厚生労働省ホームページ「インターネット喫茶店」

厚生労働省は、「住居喪失不安定就労者の実態に関する調査」の結果を発表した。住居を失いインターネットカフェやマンガ喫茶などで寝泊まりしながら不安定就労に就いている「住居喪失不安定就労者」(ネットカフェ難民)が全国で約5,400人に上ると推計されている。

調査では、まず6月上旬から中旬に第1次調査を実施。全国の24時間営業のネットカフェおよびマンガ喫茶などの全店舗3,246店に対して電話調査を行ない、1,173店から有効回答を得た結果をもとに、平日1日あたりの平均的なオールナイト利用者を全国で約60,900人と推定した。次に6月下旬から7月中旬まで、146店のオールナイト利用者を対象に第2次調査を実施する予定である。このうち87店/1,664人からの回答を得て、オールナイト利用の理由などについてまとめた。これによると、オールナイト利用の理由は、「パソコン等を利用するため」が52.8%、「仕事や遊び等で遅くなり帰宅がおっくう」が27.8%と多く、「住居がなく寝泊まりするために利用」(＝住居喪失者)は7.8%だった。

これらの結果から、ネットカフェなどで常連的に(週半分以上)寝泊まりする住居喪失不安定就労者を存在数ベースで約5,400人と推定。内訳は、短期派遣労働者などの非正規労働者が約2,700人、正社員が約300人、失業者が約1,300人、無業者が約900人となっている。なお、年齢分布では、20歳代(26.5%)と50歳代(23.1%)に2つの山が見られた。

#### ■参加したい人は

2004年度から事業を展開し、社会福祉士会、市社協、行政(生活保護、保健課)、ボランティア、広島国際大学学生(医療福祉学科、看護学科)の協働で夜回りを行っています。毎月第4火曜日18:00～20:00、すこやか会館に集合です。ぜひ参加してください。詳細は広島県社会福祉士会事務局までご連絡下さい(082-254-3019)。(文責:中・南支部 垣内富子)。

**自宅でできる寄付ボランティア** ご自宅に眠っている物品がありましたら、ぜひ寄付をお願いします(寄付金も歓迎いたします)。**タオル**(今一番不足している)、**冬物の衣類**(洗濯済みのズボン、ジャンパー)、ベルト、新品下着(トランク型)、靴下、**運動靴**、**スポーツバッグ**、**帽子**(野球帽)。**自転車**(中古自転車、防犯登録済みの場合は、前所有者が譲渡の意思があることを書面にしたものを添えて寄付してください)、**食料**(米、缶詰、即席カップ麺、レトルト食品、カレールー、日持ちする野菜(かぼちゃ、だいこん、にんじん)など)。**食料**:お米、缶詰、即席カップ麺、レトルト食品、カレールー、日持ちする野菜(かぼちゃ、ジャガイモ、たまねぎ、だいこん、にんじん)など。

(用途) 主として、くつろぎ入浴サービス、路上に定住し自炊している人、路上脱却直後の人のために使います(現物給付なので借金になりません)。

※この他の物品の寄付については、事務局にご相談いただけると幸いです。